

西国街道 武庫川髭の渡し 国道 171 号線武庫川甲武橋東岸周辺 2020.10.11.



尼崎にもこんなゆったりと時間が流れる緑の草原がある
六甲を背にした甲山の眺望 & この秋 河川敷に出現した草原



2020.10.2. R0210higenowatashi00.htm by Mutsu Nakanishi

毎度伊丹に出かけるたびに通過する国道171線甲武橋。

「西国街道のかつての渡し場 武庫川土手の一番景色のいい場所 六甲を背にした甲山全体を眺められる」
今日は時間もたっぷり。久しぶりに甲山の姿を写真を撮りたくて、伊丹へ行った帰りに車を止める。

この辺りはかつての西国街道髭の渡しと聞かざりながら歩いた記憶なし。

また近くに河川敷を利用したコスモスがあると聞く。いつも甲武橋を渡るとキョロキョロ。

今日は疑問解消に甲武橋の河川敷を歩いて、一挙に疑問解消。気になっていたコスモス畑と武庫川の渡し場へ。
土手で散歩している人に聞いて、今年はコスモス畑は中止と。ようやく神戸総合郷運動公園ではコスモスが咲き始めましたが、どこともコロナ禍でコスモス畑中止なんだと。

小学生の頃 六甲を背に鉄兜型の甲山はどこからでも見慣れた山。また きまって遠足やwalkの行事といえばは武庫川の河川敷。武庫川土手から眺める甲山・六甲は四季折々に焼き付いている一番の景色。

もう何十年も前の記憶を頼りに、家内と二人で武庫川の土手歩きの風来坊をしました。



本項目のスライド動画は下記のホームページに掲載しています

風来坊・Country Walk2020 「西国街道 武庫川髭の渡し 国道 171 号線武庫川甲武橋東岸周辺 2020.10.11.」

◎ <https://www.infokkna.com/ironroad/2020htm/walk17/R0210higenowatashi00.htm>

◎ <https://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/20wak05.mp4>

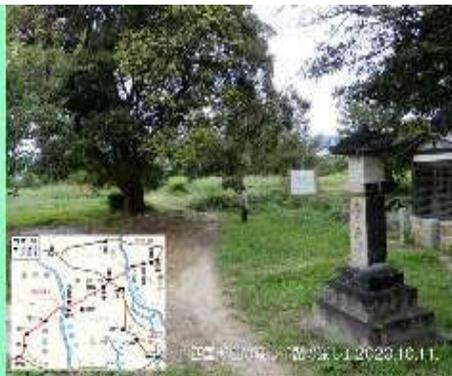
photo Album 武庫川河川敷 西国街道髭の渡し跡に広がる草原 2020.10.11.

人工的に整備されているのですが 緑に包まれこんなに美しい草原が尼崎にもある



旧西国街道 髭の渡し跡の案内板や石碑などがある周辺 2020.10.11.

この辺りには かつて茶店などがあり、古くから西宮を出発点に渡しから伊丹の昆陽を通して京に上る京街道で、大変にぎわったという。さらに西国・九州への重要街道整備が進むと、それらを含めて京都から神戸さらに瀬戸内海沿いに山口長府や九州までを西国街道と呼ぶようになる。すぐ南側 武庫川に架かる甲武橋は国道 171 号線 現代の西国街道で、旧の西国街道と並行して淀川の西岸を通して京都を結ぶ。京都に行くと大文字山や比叡山を眺めながら鴨川から高野川を歩くのですが、武庫川土手の景色も四季折々 今も天下一品の景色です。



西国街道・髭の渡し

この町には江戸時代に武庫川を渡る西国街道の渡し場がありました。街道沿いの西国陣村に屋敷をばやした豪者が茶屋があったことから「髭の渡し」と名づけられたといわれています。江戸幕府の命令によって文化3年(1806)にあられた「山崎渡分限証地図」を見ると、武庫川の河原をはさんで街道の通船が両岸の里のところで渡切れていますが、ここに渡し場はありません。渡し場の様子は復元されていますが、山崎町の街道沿いに「髪茶屋」や「豆焼(人足が休憩する所)」と表記された建物が残っています。

この渡しでは東から西への川越えは栗引村と西国陣村の3カ村が舟番で受け持ち、西から東への川越えは、長上村、上天市村、下天市村(いずれも現在は西国町)の3カ村が舟番で受け持っていました。例年10月中旬から翌年春の彼岸までは、舟番が受けられ、水害が起きた時には人足の舟越えによる渡しが行われていましたが、後には船での渡しが行われるようになりました。

幕末文政の大客や往來の商人など数多くの人々に利用されてきたこの渡しは、明治の終わりに下流に平交橋が架けられ、西国街道の前身(国道171号線)ができるまで続きました。

兵庫県 土庫町



2020.10.11 尾道 武庫川河川敷、髭の渡し(西国街道)



西国街道
西国街道は、江戸時代における街道の1つで、近世山陽道の別名で、京都から下関、あるいは九州の大宰府までの経路で、徳川時代に大略として整備された「山陽道」とほぼ一致。狭義の西国街道(旧西国街道・山陽道)として京都 - 西宮までの区間を指す場合もある。現在は国道171号線が西宮 - 京都間をほぼ同じ流川西岸を結び、この区間を西国街道と呼ぶことも多い。

「髭の渡し」
西宮/尼崎の境を南北に大阪湾へ注ぐ武庫川。西宮から伊丹尾端の里へ抜ける西国街道の渡しは「髭の渡し」である。現在河川敷敷地として整備され秋にはコスモス畑として、親しまれている。



Internet 検索で探致



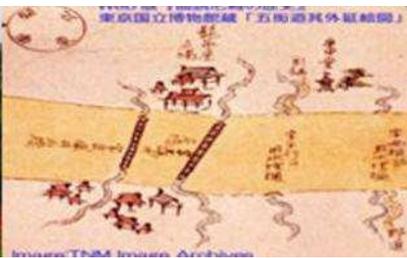
尾道市域で西国街道が通っているのは武庫川の東、西国陣村です。西国街道尾道宿から15丁ほど西にすすむと西国陣村で、ここで武庫川を渡ります。

「髭の渡し」と親しまれ、商人や人足・舟子らが休憩する茶屋がありました。酒席は夜間が賑わって舟行渡りをしていただけですが、増水すると人足の舟車を運ぶによる川渡しが行なわれました。

増水時には、武庫川の東岸では西国陣村と岸松対が瀬川で西側への渡しを担当し、西岸は長上村・上天市村・下天市村(以上現西国町)が東岸への渡しを月交代で担当しました。

増水時の場合による渡しについては、水の深さごとに「水深」=台1艘につき人足6人掛かり、「腰切」=台1艘につき8人掛かり、「乳切」=台1艘につき人足10人掛かり、「乳切」=台1艘につき人足12人掛かり、とも記されています。

尾道地蔵の歴史より
<http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/record/sy/sytsu/20kisei/kisei-2-5.html>



西国街道の渡し「髭の渡し」 30年に出る道徳道、船舟を申し込んた人 2020.10.11

2020.10.11 尾道 武庫川河川敷、髭の渡し(西国街道)



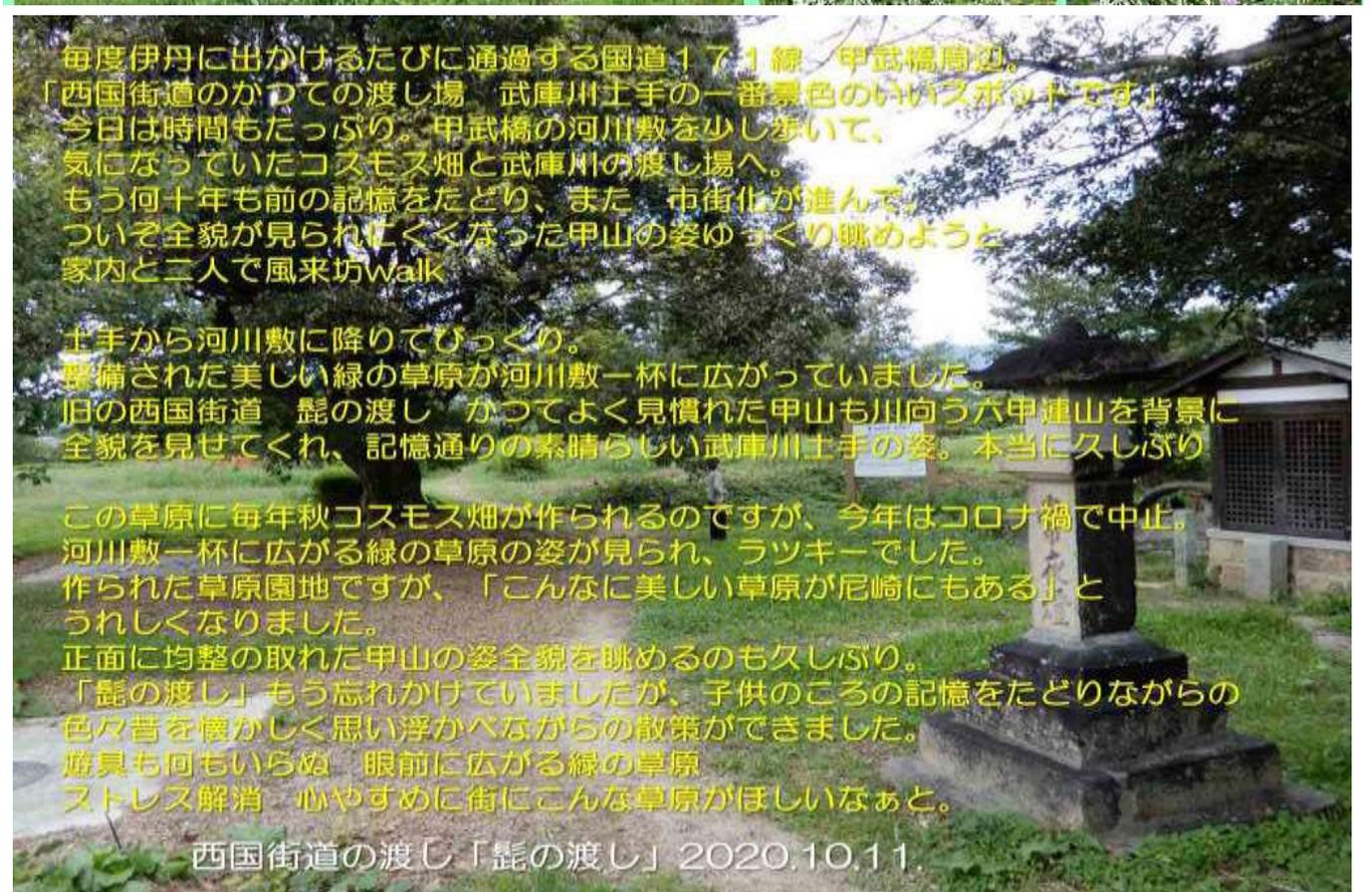
西国街道の渡し「髭の渡し」、河川敷の草原を 2020.10.11

毎度伊丹に出かけるたびに通過する国道171線、甲武橋周辺。「西国街道のかつての渡し場、武庫川土手の一番景色のいいスポットです」今日は時間もたっぷり、甲武橋の河川敷を少し歩いて、気になっていたコスモス畑と武庫川の渡し場へ。もう何十年も前の記憶をたどり、また、市街化が進んで、ついそ全貌が見られにくくなった甲山の姿ゆっくり眺めようと、家内と二人で風来坊walk

土手から河川敷に降りてびっくり。整備された美しい緑の草原が河川敷一杯に広がっていました。旧の西国街道「髭の渡し」かつてよく見慣れた甲山も川向う六甲連山を背景に全貌を見せてくれ、記憶通りの素晴らしい武庫川土手の姿。本当に久しぶり

この草原に毎年秋コスモス畑が作られるのですが、今年はコロナ禍で中止。河川敷一杯に広がる緑の草原の姿が見られ、ラッキーでした。作られた草原園地ですが、「こんなに美しい草原が尼崎にもある」とうれしくなりました。正面に均整の取れた甲山の姿全貌を眺めるのも久しぶり。「髭の渡し」もう忘れかけていましたが、子供のころの記憶をたどりながらの色々昔を懐かしく思い浮かべながらの散策ができました。遊具も何もいらぬ、眼前に広がる緑の草原、ストレス解消、心やすめに街にこんな草原がほしいなあと。

西国街道の渡し「髭の渡し」2020.10.11





西国街道の渡し「髭の渡し」の土手から眺める甲山&六甲連山 2020.10.11.



2020.10.11. 髭の渡し(旧西国街道)から眺める甲山
甲山の手前の建物は野球で有名な報徳学園高校



西国街道の渡し「髭の渡し」の土手から河川敷への降り口周辺で 2020.10.11.

西国街道・髭の渡し

この付近には江戸時代に武庫川を越える西国街道の渡し場がありました。街道沿いの西原南村に長をはやした老人が寝む茶屋があったことから「髭の渡し」と名づけられたといわれています。江戸幕府の命令によって文化3年(1806)に作られた「山崎通分龍延絵図」を見ると、武庫川の河原をはさんで街道の通船が兩岸の境のところで途切れているのが、ここに渡しがありました。渡し場の様子は描かれていませんが、尼崎側の街道沿いに「髭茶屋」や「立湯(人足が休息する所)」と注記された建物が描かれています。

この渡しでは東から西への川越えは栗松村と西原南村の2カ村が月番で受け持ち、西から東への川越えは、段上村、上天市村、下天市村(いずれも現在は西宮市)の3カ村が月番で受け持っていました。例年10月中旬から翌年春の彼岸までは、板橋が架けられ、水量が増した時には人足の肩越えによる渡しが行われていましたが、後には船での渡しが行われるようになりました。

参勤交代の大名や往來の旅人など数多くの人々に利用されてきたこの渡しは、明治の終わりに下流に甲武橋が架けられ、西国街道の新道(現国道171号線)ができるまで続きました。

兵庫県 土木事務所
尼崎市



西国街道の渡し「髭の渡し」 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」の土手から河川敷 降り口周辺



西国街道の渡し「髭の渡し」
土手から河川敷への降り口から小道が武庫川の河原へ続く
かつては茶店や行き交う人でにぎやかな渡し場だったようですが、
今は本当に静かな所。電線もなく映画のシーンを見ているようです



西国街道の渡し「髭の渡し」土手から河川敷への小道で



西国街道の渡し「髭の渡し」 2020.10.11.
河川敷一杯に広がる草原の向こう川岸に沿って遊歩道があり、川の向こうに六甲を背にした
甲山が見える。子どもの頃からよく見た甲山の姿 今日ゆっくりと
彼岸花も草原のあちこちに咲いていて この秋の景色に花を添えている。



西国街道の渡し「髭の渡し」 川岸に沿う遊歩道 散策を楽しむ人たち 2020.10.11.



広い武庫川の河川敷、かつては西宮から京へ向かう西国街道
武庫川の髭の渡し跡、広い河川敷が自然そのままの草原公園として整備されている。
まるで、広い草原の中を散策しているような感じである。
武庫川の堤防の中、かつては、自然堤防の中にあつた耕作地、今は春の菜の花、秋のコスモス畑として整
備された公園。でも今年はコロナ禍でコスモス畑にできず、草原がそのまま残ってこの緑の草原風情が染
しめる。草原のあちこちに咲く彼岸花が秋のひとときを感じさせてくれる。
街道沿いの大きな松などの樹木が点在し、木陰に座つてこの景色を楽しむ人たちが見える。草原の中に整
備された道も構も全くなく人工物がない緑の空間。川岸に近づく武庫川の流れ、六甲の山並の前に
甲山の姿全体が見える。子供の時によく見た武庫川・甲山の姿がありました。
ほったらかしにされた草原ではない。よく整備された草原、でもいわゆる公園のような窮屈さがない。
このままの姿、維持した公園であってほしいなあ・・・と



西国街道の渡し「髭の渡し」の草原で、彼岸花 2020.10.11.



2020.10.11. 尼崎 武庫川河川敷 髭の渡し(旧西国街道)



西国街道の渡し「髭の渡し」 河川敷の草原で 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」 河川敷の草原で 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」 河川敷の草原で 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」 河川敷の草原で 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」 河川敷の草原で 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」 土手の上より眺める甲山 2020.10.11.



「髭の渡し」のすぐ南、現在の西国街道 国道171号線 甲武橋より眺める甲山 2020.10.11.



西国街道の渡し「髭の渡し」 2020.10.11.

毎度伊丹に出かけるたびに通過する国道171号線 甲武橋周辺、「西国街道のかつての渡し場 武庫川土手の一番景色のいいスポットです」今日は時間もたっぷり。甲武橋の河川敷を少し歩い、気になっていたコスモス畑と武庫川の渡し場へ。もう何十年も前の記憶をたどり、また、市街化が進んで、ついで全貌が見られなくなった甲山の姿ゆっくり眺めようと、家内と三人で風采坊walk

土手から河川敷に降りてびっくり。整備された美しい緑の草原が河川敷一杯に広がっていました。旧の西国街道 髭の渡し かつてよく見慣れた甲山も川向う六甲連山を背景に全貌を見せてくれ、記憶通りの素晴らしい武庫川土手の姿。本当に久しぶり

この草原に毎年秋コスモス畑が作られるのですが、今年はコロナ禍で中止。河川敷一杯に広がる緑の草原の姿が見られ、ラッキーでした。作られた草原園地ですが、「こんなに美しい草原が尼崎にもある」とうれしくなりました。正面に均整の取れた甲山の姿全貌を眺めるのも久しぶり。「髭の渡し」もう忘れかけていたが、子供のころの記憶をたどりながらの自分首を掻かしく思い浮かべながらの散策ができました。道員も何もいらぬ。眼前に広がる緑の草原 ストレス解消 心やすめに街にこんな草原がほしいなあと。

西国街道の渡し「髭の渡し」 2020.10.11.



西国街道

西国街道は、江戸時代における街道の1つで近世山陽道の別名で、京都から下関、あるいは九州の太宰府までの経路で、律令時代に大路として整備された「山陽道」とほぼ一致。狭義の西国街道(旧西国街道・山崎道)として京都 - 西宮までの区間を指す場合もある。現在は国道171号線が西宮-京都間をほぼ同じ淀川西岸を結び、この国道を西国街道と呼ぶことも多い。

「髭の渡し」
西宮/尼崎の境を南北に大阪湾へ注ぐ武庫川 西宮から伊丹昆陽の里へ抜ける西国街道の渡し「髭の渡し」である。現在河川敷園地として整備され秋にはコスモス畑として、親しまれている

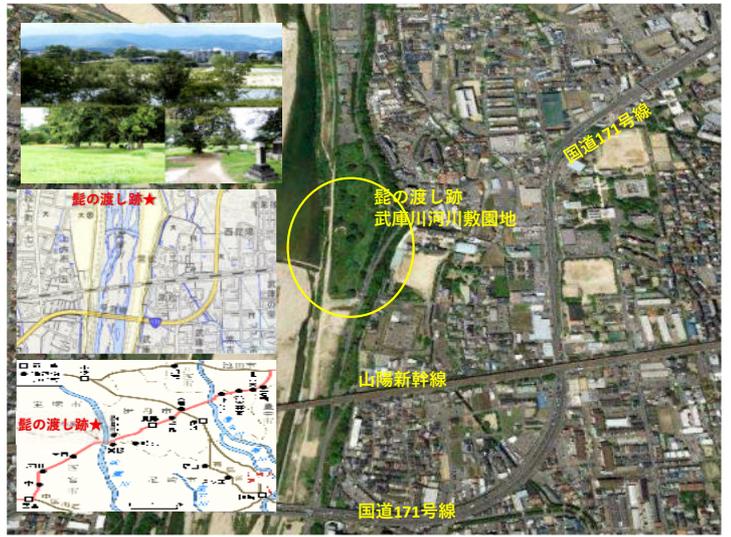


Internet 検索で採取



Image:TNM Image Archives
Source:<http://TnmArchives.jp/>
西国街道・鬚の渡しの茶屋「五街道其外延絵図」
重文 東京国立博物館蔵

尼崎市域で西国街道が通っているのは武庫川の東、西昆陽村です。西国街道昆陽宿から15丁ほど西にすすむと西昆陽村で、ここで武庫川を渡ります。
「鬚の渡し」と親しまれ、旅人や人足・馬子が休息する茶屋がありました。通常は仮橋が架けられ歩行渡りをしていましたが、増水すると人足の肩車や蓮台による川渡しが行なわれました。増水時には、武庫川の東岸では西昆陽村と常松村が隔月で西側への渡しを担当し、西岸は段上村・上大市村・下大市村（以上現西宮市）が対岸への渡しを月交代で担当しました。増水時の蓮台による渡しについては、水の深さごとに「小深」=台1挺につき人足6人掛かり、「腰切」=台1挺につき8人掛かり、「臍切」=台1挺につき人足10人掛かり、「乳切」=台1挺につき人足12人掛かり、とも記されています。
図説尼崎の歴史より
<http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/chronicles/visual/03kinsei/kinsei2-5.html>



God be with You !! 今を元気に
2020.10.11. from Kobe Mitsu Nakanishi

2020.10.12. 神戸総合運動公園のコスモス
今年のコスモスも咲くのが遅れ気味、今日の散歩で

2020年秋 From Kobe